

## 第3回小委員会にていただいた主なご意見について

1. 中央自動車道笹子トンネル内で発生した崩落事故について

- (1) 中央高速は道路の中でも最も重要な場所の一つで、恐らく管理やメンテナンスを注意深くやられていたはずであり、市町村管理の施設ではここまでやられていないものも存在する。(維持管理の)人材力や体制を考える際には、どこかに視点を集中して点検するなど、現実的な対応を考えることが重要。
- (2) メンテナンスの問題は、単に資金が足りないという話だけでなく、国民の生命に関わる問題であるということを強く認識した。

2. 今後目指すべき戦略的維持管理について

- (3) 時代に合わせて様々な機能を更新に合わせて変えていくという取組は大変すばらしく、こういった事例をますます増やしていただきたい。
- (4) やるべきことになっているのにやれていない実情を踏まえ、維持管理の「見える化」の推進を大いにやっていただきたい。また、施設の健全化についても「見える化」することが重要。
- (5) 「見える化」したデータは、データベース化を行い、一般にも公開していただきたい。
- (6) 維持管理では、常に施設を見て回り「カルテ」を作ることが重要であることは認識されているが定着していない。カルテをチェックしながら伝えていくことが重要であることを(ミッションに)明示していただきたい
- (7) 補助金・交付金のあり方として、現状では新規投資(更新を含む)を優遇しているが、維持管理を重点化することを検討すべき。
- (8) 優先順位や対応方策に関する判断にあたっては、単に施設の評価に基づいて行うのではなく、まちあるいは集落全体の計画の中での意味も考えて行うべき。

3. 技術面、人材面での今後の方向性について

- (9) メンテナンスの特性として、劣化の進行は個体差が大きいため、個別の実態把握が基本となるのではないかとということが留意すべき点。
- (10) メンテナンス業務は放っておくと、業務が現状維持になりやすいので業務改善や技術目標が必要であるという点、技術者の育成のためには安定的に仕事が必要であるという点があることに留意すべき。
- (11) 技術者育成上の課題としては、トラブルの発生は低頻度で再現期間が長

く、現場での変状の発生は緩やかで、急激に変状することがあるので、その緩やかな時に探し出すのが難しい。

- (12) それぞれの分野が重なる現場での調整にあたって、問題点をカルテのようにちゃんと調べ上げながら協議し、全体として最適となるよう調整することが必要。
- (13) 技術開発を実際に使いこなすには難しさもあり、時間をかけて辛抱強くやっていくことが必要であり、その過程では失敗もある。
- (14) JR 東日本のメンテナンス技術者は、人命に係る事故を起こさないことを最も優先すべきとしており、そのためには過去に発生した大きな事故を教訓として学ぶことが必要。
- (15) 低頻度でしか事故が発生しない状況で、技術を継承することや、モチベーションを上げてメンテナンス技術者を継続的に育てていくことは難しく、人材育成は非常に重要。

#### 4. 地方公共団体への支援について

- (16) 推計や対応方針の検討にあたっては、個々の状況をきちんと把握しないと有効な方針が出ない可能性がある。会計上は耐用年数が一律に定められるが、実際の耐用年数は個別の施設の状況により異なっており、老朽化や健全度と一致していない。
- (17) 市町村から都道府県に対し、技術的な相談をする窓口がない。
- (18) 市町村は資金面が非常に厳しく、国からの支援を要望している。
- (19) 事故が起こった時に管理者の責任が問われるのは本来の望ましい姿ではなくて、普段からインフラの管理者が管理者としての責任をきちんと果たしていけるような仕組みや体制をどう作っていくかが重要である。社会資本に関する個別法に管理者としての責任が書かれているので、インフラの公的機関あるいは公的企業を含めて責任はどうあるべきかを確認しておく必要あり。
- (20) 点検して得られたデータを維持管理や新規事業にフィードバックするサイクルを回すための体制を確保するのもインフラの管理者としての責任であり、JR 東日本では、高度技術センターが大きな役割を果たしている。自分の中で体制が取れないのであれば、外側で確保するべきであり、その際の国の果たすべき役割は大きい。
- (21) 維持管理をもっと一生懸命やらねばならないということを地方にも伝えるため、国として社会資本重点整備計画の4つの重点の中でも、維持管理の重点計画は最も重要であるというメッセージを出していただきたい。

## 5. 維持管理・更新費用の将来推計の考え方について

- (2 1) 維持管理費で実績を基に計上しているものがあるが、適正に行われた上での実績なのか不明であるため、適正に行われているところに限った実績としないと心配。そういう意味で、誤差の評価を入れるべき。
- (2 2) 推計で採用している更新実績について、地理的な条件で違いがあるのかという統計的調査をお願いしたい。
- (2 3) 推計の数値を確定的な数字で出してしまうと、数字が一人歩きする恐れがあるため、誤差があることを記載するべき。